令和５年産

○早植、普通期育苗（25日苗、平床育苗）

一般慣行育苗ごよみ

ＪＡふくおか嘉穂
飯塚普及指導センター

特栽米は種子消毒･育苗中の肥料･農薬は使用できません

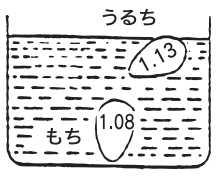
早植・普通期育苗

月日	は種前後日数	農家記入	主な作業	管理ポイント
5/6	−10		床土の準備	・山土の場合　1箱当たり床土4ℓ（2升3合）、覆土は0.9ℓ（5合）準備する。pHは5～6が適当。籾殻くん炭を3分の1程度混ぜる。育苗肥料（4・4・4）を1箱当たり20g混ぜる。 ・合成培土の場合　1袋（20kg）で6箱分使用する。
		／	塩水選	・種子は、10a当り3.0～3.5kgを準備する。 ・塩水選は、表1のとおり塩水をつくり、浮いた籾を取り除く。塩水選をした後は必ず水洗いをして塩分を落とす。
		／	種子消毒	・種子量と同量以上の薬液に24時間浸せきする。その間に3回程度混ぜる。
5/11	−5	／	浸種	・浸種に要する日数は5～7日間程度で、種子をはと胸状態にする。 ・催芽が十分でないと障害が出る恐れがあるので、催芽を十分に行う。
5/16	0	／	は種	・は種量は、催芽籾で150g程度とし、できるだけ薄まきする。 ・は種時にナエファインフロアブル1000倍とベンレート水和剤500倍液を1箱当たり500mℓ散布する。図1参照。 ・平床育苗で太陽シートを使用する場合は必ずベタがけとする。寒冷紗又は不織布の場合は、ベタがけ又はトンネル方式のいずれでも良い。 ・出芽後カビの発生が見られた場合、は種後14日までにダコレート水和剤500倍液を1箱当たり500mℓ灌注する。 ・被覆資材は、苗丈が4～5cm程度に伸びたら除去する。表-2参照。
5/21	5	生産履歴は必ず記帳しましょう。		
5/26	10			
5/31	15			
6/5	20			
		／	弁当肥	・弁当肥は、田植3日前に、水10ℓに硫安を30g溶かし20箱にジョロで散布する。散布後必ず葉水をかける。（苗の葉色が濃かったり、徒長苗の場合は、弁当肥は行わない。）
		／	箱施薬	・箱施薬については、稲作ごよみに沿って使用する
6/10	25	／	田植	※育苗センターの苗（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリ）は箱施剤（防人箱粒剤）入りです。田植前に箱施薬を散布する必要はありません。

表－1　水10ℓに溶かす量

	比重	食塩	硫安
うるち	1.13	1.94kg	2.68kg
もち	1.08	1.11kg	1.46kg

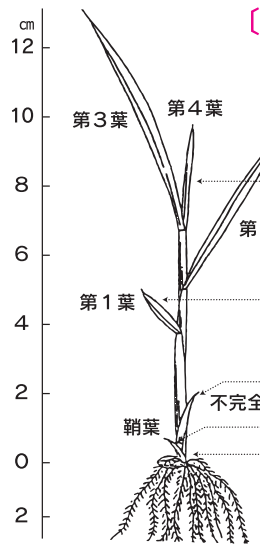
●生タマゴによる判定



表－2　被覆資材

	被覆日数	注意事項
黒色寒冷紗	8日程度	トンネルにして被覆する方が望ましい
不織布	7～8日	灌水時は不織布を取り除く
太陽シート	7日程度	降雨時・灌水時は取り除く（ベタ被覆の場合）

〔良い苗の条件〕



・苗丈は13～15cmどまり、乾物量は22mg以上。
・葉は広く、いきいきとした緑、太刀のようにそる。
・第４葉が２cmほど出ている。
・第１葉の葉鞘高は約５cm以内（葉耳までの高さ）で高さが揃っている。
・不完全葉は４cmどまり、腰が太く巾が２mm以上あり丸みがあって、がっしりしている。
・鞘葉は１cm以内。
・メソコチルの伸びが少くない（２mm程度）。

図－1

100箱分
ナエファインフロアブル　50mℓ
ベンレート水和剤　100g

特別栽培米の種子消毒（温湯消毒他の方法）

・種籾を60℃のお湯に10分間浸漬。浸漬後、すぐに冷水で冷やす。（温度と時間を厳守する事。温度が高かったり、時間が長いと発芽不良を起こすし、逆に低かったり、短いと消毒効果が低下する。）
・温湯消毒を行う場合、種籾の塩水選はしないで下さい。
・また、苗いもち等の苗病害予防として、浸種～催芽時に24時間エコホープDJ（微生物農薬）200倍液に浸せきする。さらに、は種直後覆土前にカスミン液剤（抗生物質）5倍液を1箱当たり50mℓ散布する。
＊ただし専用の機械が必要です。

種子消毒

2薬剤混用	倍率	種子	薬量	希釈水量
テクリードCフロアブル	200倍	10kgの場合	100mℓ	20ℓ
スミチオン乳剤	1000倍		20mℓ	

※箱施薬剤の使用上の注意

①施薬量は、必ず1箱50gにする。
②箱施薬は育苗箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、薬剤がおちつくように軽くかん水する。
③田植当日散布の場合は、苗移動等で薬剤が落ちたりするので注意する。

令和4年11月作成